

いしづち

2015.7

No.105



公益社団法人 愛媛県建築士会
<http://www.ehime-shikai.com>



松村正恒語録

故きをたずねて

自然と家とにんげんと

2015

7

CONTENTS

ISHIZUCHI

Ehimeken kenchikushikai

JULY

No.105

1	平成 27 年度に当たり	会 長	寺尾 保仁①
2	松村正恒語録 思うに任せぬ、この世のならい	②
3	故きをたずねて 県内最古の木造建築 大宝寺本堂（松山市南江戸町） 文化財・まちづくり委員会 委員長		花岡 直樹③
4	しつらひ 家具の話 - 探す・出逢う -	松 山 支 部	東 優④
5	自然と家とにんげんと 力強い木組みを前に…	今 治 支 部	橋詰 飛香⑤
6	光のはなし 今治市河野美術館の茶室 待庵の明り	宮地電機株式会社	田部 泉⑥
7	夢・現 女と男	松 山 支 部	玉乃井公和⑦
8	会員のお仕事拝見 R屋根を持つ西条の家	周 桑 支 部	篠原 健治⑧
9	委員会報告 建築文化市民講座報告 建築文化市民講座報告 谷上山慈悲院宝珠寺と川中夏吉 文化財・まちづくり委員会 委員長	文化財・まちづくり委員会 副委員長 谷上山慈悲院宝珠寺と川中夏吉 文化財・まちづくり委員会 委員	若松 一心⑩ 峰岡 秀和⑪
10	支部報告 三津浜地区 古民家・史跡散策報告	松山支部 北地区勉強会	横田 彩⑫
11	けんちくの輪 けんちくの輪 つながり	松 山 支 部 宇 和 島 支 部	赤松 慶隆⑬ 酒井 久和⑭
12	お知らせ 平成 27 年度第 1 回理事会報告（概要報告） 平成 27 年度通常総会報告 平成 27 年度愛媛県建築士会松山支部理事会・通常総会報告 事務所協会との合同親睦ゴルフコンペ報告 山田きよ版画展・編集後記	松山支部部長 副 会 長	事 务 局⑮ 事 务 局⑯ 赤根 良忠⑯ 赤根 良忠⑰⑰

※ 尚、表紙及び本誌記事の無断転載を禁じます。



版画

題：雨後の街巷

山田 きよ

[表紙の版画について]

知人女性に、矢絣の着物を着てモデルになってもらい、内子八日市町並みで描いた作品。民宿二階の客間から、しっかりととした雨あがりの町並みを見下ろしていると、一瞬風が吹き、うどん屋の暖簾がなびいた。背後には本芳我邸の大樹が枝を四方に広げている。大判版画でいい感じに仕上がった。2011年の意欲作

表紙作者 山田 きよ プロフィール

1959 喜多郡五十崎町（現内子町）に生まれる

1980 松山デザイン専門学校卒業

1982 広告デザイン会社を退社し、家業の竹材業に就く

1988 独学で切りぬき手法のシルクスクリーン版画を初制作
以後、内子町内子座や大凧合戦のポスターを手がける

1993 初の個展

2003 愛媛県文化協会奨励賞

2012 個展回数が 100 回となる

(本名 山田 清昭 内子町在住)

平成 27 年度に当たり



会長 寺尾 保仁

6月9日に、平成27年度通常総会を多数の会員の皆様の出席をいただき開催することができました。心より感謝申し上げます。また引き続き式典には、愛媛県土木部長頬木清隆様をはじめ各界から多数のご来賓をお迎えして盛大に行われました。式典において表彰状、感謝状を受賞された皆様に改めましてお慶びを申し上げます。

総会において昨年度決算及び事業報告、本年度の予算及び活動計画が承認されました。昨年度の経常費用公益比率は55.1%で、公益比率50%を超える事ができました事は皆様のご努力、ご協力の賜物であり、深く感謝申し上げます。

27年度は次の四項目の重点施策、

- 一. 建築士の資質の維持・向上のための講習会・研修の実施
- 二. 健全財政への取り組み
- 三. カード型免許証明書の切替促進
- 四. 公益目的事業の変更申請等について

を掲げさせていただき、より一層公益性の高い資格者団体をめざして事業に取り組んでいくことが承認されました。また、今年度の事業としてヘリテージマネージャーの講座の開設、木造の耐震化等の行政事業への協力の推進、本会館の耐震化に対しての早期の検討を行いたいと特に考えております。ヘリテージマネージャーとは、歴史的建造物の保全活用に係る専門家のことで、すでに他県の多くに於いて講座が開設されており、本県においても社会の要求に応えるべく遅ればせながら事業を進めてまいります。

また青年、女性委員会の活動もできる限りバックアップしていきたいと思っております。最新情報として、6月13日に開催されました「青年・女性建築士の集い中四国ブロック大会（広島大会）」で、愛媛県の発表した地域実践活動が優勝し、中四国ブロック代表として全国大会において発表する事となりました。是非、皆様10月30日の全国大会「石川大会」金沢へ行って応援いたしましょう。

耐震偽装の事件より早や10年が過ぎようとしておりますが、6月25日には建築士法の改正が施行されます。今回の建築士法の改正は、建築士会、建築士事務所協会、建築家協会の3会が共同で、国に建築士のより質、地位の向上を目指して提案されたもので、我々の意見が取り上げられた画期的なものであります。それゆえ我々建築士の業務の社会に対する責任の重さを、ますます感じさせるものとなりました。今後は建築士の業務の適正化をより進め、建築士のレベルアップを図ると共に会の一層の充実を目指していきたいと考えておりますので、引き続き皆様のご理解、ご協力を願いいたします。

終わりに、会員皆様方のご健勝と益々のご発展を祈念致しまして簡単ではございますが 総会報告と今年度活動方針とさせていただきます。

思うに任せぬ、この世のならい

耳障りなことを言って、心苦しくは思えども、我が心、苦く、はがゆきを察してたもれ、己れ、力なきとは知りつつも、思うに任せぬ、この世のならい、しゃくにさわると心根に宿るも悲しき、これ、ひとえに、行く末を案じ、後いくとせ生きるすべ、明らかならず、老いのあせりと同情あれ。

これでは、ならじと仏の道に近づかんと、日夜つとむれど、それにまさる世の腐敗に心痛む、我が志しの立たざるを、腹立ちまぎれに、君にあたり、許されよ。

思えども、通じぬ心のもどかしさ、これが今の人々の世のあわれかな

耳 ~~耳~~ = た�
高 ~~高~~ = たか
四 ~~四~~ = シテ
C. はがやか
を ~~を~~ = トモ
己 ~~己~~ = わ
見 ~~見~~ = める
の ~~の~~ = な
根 ~~根~~ = ね

化の道
が人間の道
は、日元
世の者
が志の立た
ざるを勝手
まわらひ
あたり、経
ての、人間の
ことなど。
通じぬ人の
思ひとも

第1回 県内最古の木造建築 大宝寺本堂（松山市南江戸町）

文化財・まちづくり委員会 委員長 花岡 直樹

愛媛県にはたくさんの素晴らしい歴史的建造物が残されています。歴史の説明や建物の解説の資料はたくさんあると思いますので、前号で予告させていただいた通り、これらの素晴らしさをなるべくわかりやすく、こんな見方が面白い、といった角度からご紹介していきたいと思います。来年度からは、歴史的建造物の保全活用に係る専門家（ヘリテージマネージャー）育成講座も開始される予定です。多くの方、特に若い方々がこういった建物に興味を持っていただけたらと思い頑張ってみたいと思います。しばらくの間お付き合い下さい。

大宝寺本堂

古照山大宝寺は、西暦701年に国司の越智玉興（たまおき）によって創建されたと言われ、その時の年号を取って大宝寺と称しました。現在の本堂は、平安末期または鎌倉初期の創建とされ、平安期の弥陀堂形式を整えた県下最古の木造建築物で、堂内に安置されている厨子と、貞享2年在銘の棟札とともに国宝に指定されています。

建物は、桁行（正面）3間、梁間（奥行）4間、屋根は本瓦葺きです。古建築の「一間」は1.82mを意味するのではなく、柱間がいくつあるかということを表します。ですから3間×4間に於ける面的には正方形です。それなのに屋根をよく見ると…、寄棟造りになっています。これは軒裏のちょうど45度方向に出ている隅木と、屋根瓦の隅棟が微妙にずれているからなのです。これを「振れ隅」と言い、正面の屋根勾配より側面の方を急勾配にすることにより正方形なのに方形ではなく寄棟になっているのです。

中には中央の阿弥陀如来坐像ほか、国の重要文化財の仏像計3体が安置されています。建物自体簡素な作りで、これらの仏像を守る、まるで母親のおなかのような仏堂本来の姿を感じることができます。

この大宝寺、残念ながら第二次大戦の戦禍を受け、本堂とその前に茂る「うば桜」だけをかろうじて残し、他の建物は焼失してしまいました。本堂西の外壁面には焼夷弾がさく裂した時の鉄片が突き刺さったまま取り除かれずに残されています。皆で消火に当たって本堂を守ったことを記憶に残すために、そのまま保存しているとのことです。

うば桜の学名はエドヒガン、こちらは松山市の天然記念物に指定されています。小泉八雲の怪談にも掲載されているうば桜伝説は有名で、境内にこのほど乳母桜像が設けられました。これは平城遷都1300年祭のマスコットキャラクター「せんとくん」で話題を呼んだ彫刻家、薮内佐斗司氏の作品です。

この桜、ソメイヨシノの開花宣言が出たころ、乳母のお乳のような真っ白の花で満開となります。毎年3月28日には、御影供（みえく）の法要が営まれ（この日は乳母お袖の命日もあります）、本堂の正面3間の蔀戸（しとみど）が全て開け放たれ、10人を超える僧侶が一斉にお経を唱えこの世のものとは思えないくらい莊厳な世界に導かれます。是非一度お訪ね下さい。



本堂（正面より見る）



乳母桜像（薮内佐斗司氏作）

第五回

家具の話 - 探す・出逢う -

しつらひ

松山支部 東 優

長い間一緒に暮らす家具。いい家具に出逢えれば、暮らしはまた楽しくなります。選ぶときのちょっとポイント…ソファ、ダイニングテーブル、ベッド。

① ソファ

- ・『仕立て』…洋服も縫製が綺麗に丁寧にされているものは品質がいいということ。家具も同じ。肘や背など細かい角の部分がカチッと綺麗に縫われているか、カバーもピンと張っているかも確認します。

- ・『フレーム』…がっしりしっかりしたもの。

持ち上げてたわみのあるものは、NG。フレームがしっかりしていれば、クッションや生地を取り替えてメンテナンス出来て、長く使えます。

- ・『クッションの中身』…ウレタン、羽毛、スプリング、テープなど、いろいろな素材が使われています。その組み合わせで座り心地が変わってきます。張り地の下、クッションの中の素材が、何種類か、何層か？铸物で発泡成形したモールドウレタンや、コイルスプリングを使用したものは耐久性もよく、粘りのある座り心地です。

- ・『重さ』…『重いソファはいいソファ』と言われています。運送屋さん泣かせの重いソファは、いい材料できちんと作られている証拠。座クッションが取り外しきれいな場合は重さを確かめてください。



② 木のダイニングテーブル

- ・『無垢・突板』の良さを選ぶ。

無垢のテーブルは一枚板のものと集成接着したものとあります。木の素材感にうっとり、使い込むほどに味わいが増します。万が一の表面の傷も補修が容易。出来れば十分な乾燥度合いもチェック。突板は繊細なラインを表現しやすく、そりやねじれに強く、デザインの自由度が高いのも良いところです。

- ・『天板の裏も綺麗』…天板の裏も綺麗に仕上げているか、

撫でてみる。（かなりあやしい動き…）表も裏も綺麗に仕上げているのは上質な家具。

・『高さ』…椅子の座面とテーブル天板の高さの差は、250～300 mm。リラックスするか、作業するかによって、その差は微妙に変わります。靴を履くか、スリッパかによっても。肘がある椅子は肘の高さが、天板の下にちゃんと入るかどうかもチェック。



③ ベッド

- ・『寝心地を探る』…ちょっと横になっただけではわかりにくいものです。体に合ったベッドは、健やかな睡眠を約束してくれます。耐圧を分散させ、良い寝姿勢を保持してくれるかどうか？慎重に選びます。

『マットレスとボトム』…連続コイル、独立コイル（ポケットコイル）、そのコイル数（品表ラベル確認！）、高弾性ウレタンフォーム、ウォーターベッド、天然ココナッツ繊維、ラテックス etc…マットレス素材はさまざまです。それを載せる本体ベースも、大切。梯子状の板がしなるものや独立したバネが配置されたものもあり、高い通気性を確保し、マットレスの負荷を吸収、耐久性をアップさせます。上質な寝心地のベッドは、文字通り健やかな身体を支える大切な家具なのです。（ソファにも寝心地は大切かもです）

• *..。 ..。 ..*・°。 • *..。 ..。 ..*・°。 • *..。 ..。 ..*・°。

『きもちいいから』、『好きだから』…どこにどんな家具を置くかを暮らしながら決めていく…そんな積み重ねが、『しつらひ』を作り上げていきます。

風合いが増し、暮らしになじんだ家具は、思い出も込み込む『用の美』。上質な家具によってしつらえられた『場』の佇まいは、どこか凛として、美しいです。

力強い木組みを前に・・

今治支部 橋詰 飛香

昔ながらの家づくりに携わっていると、現場の瞬間瞬間の様子が美しくて暫し感動をすることがあります。大工さんの手によって4～5ヶ月の長丁場をかけ刻まれた大きな柱や梁材が組み上がった様子はまさに感動そのもの。毎度棟上げ後は道行く人が足を止めて眺めていくぐらいです。

使う材の大きさは在来の住宅に比べると一回り二回りと大きく、そこに足固め材や差し敷居・差し鴨居など在来の家では見かけなくなった部材も加わるので構造材の材積は通常の2倍程度以上に。梁と梁が幾重にも組み合わさった様子は「本当に力強く美しい」の一言です。そして見るからに圧倒される様な安心感は、昔ながらの家づくりで得た初めての体感でした。



(しっかりとした木組みからは溢れるような安心感と美しさが・・)

そのせっかくの大工さん達の汗の結晶とも言える力強く美しい仕事を、私は隠したくはなく木組みを現しで仕上げることが常です。目に見えるこの安心感を家主はいつも感じて暮らす様になるでしょうし、それは木の家だからこそできる魅力です。

構造材が隠れる大壁のような造りでは、職人の頑張りも目に見えず、ついつい手を抜きたくなってしまうのが人というものでは？と感じます。自分のした仕事が目で見える造りになると職人というのは変わるものです。当然手は抜けません。綺麗に納めたいという気持が生まれ、仕事も良くなります。頑張りが評価されれば更にやる気が高まります。技術の低下や手抜き仕事は、職人達の仕事をきちんと評価できない造りにこそあるのではと考え

るのです。

そして昔ながらの家づくりでは出来るだけ金物に頼らないのがモットーです。むしろ金物に頼らなければいけない事実のほうが、恐ろしい事ではないかと考えるのです。

先のEディフェンスで行われた実物大実験での3階建木造住宅で震度6強の揺れに耐えるとされた『長期優良住宅』の基準を満たす住宅が脆くも倒壊した事実は、金物の万全性や『基準』というものがまだ予測しうるほどの安全性を担保したものではない事を示したと言えます。金物を過信しすぎるが故に他が疎かになり、材の継ぎ手位置や架構そのものに禁じ手と思えるような危険な家を見る度に、この道に大工はいなくなってしまったのだろうか・・と思うのです。

昔ながらの家づくりも金物を使う事はあります。しかし金物に“頼る”事はせず、きちんとした仕事をしたうえで金物はあくまでも“予備の補強”という考えです。大地震の際にどこか一点に力を集中させないような粘り強い架構のあり方をまず考え（プランの段階に）、丈夫な継ぎ手や仕口を指示し、それに見合う材の大きさの選定と、一手間かけてでも大工さん達にしっかりと良い仕事をしてもらう、その為の時間とお金を施主さんに説明をして捻出して頂くことが、命を守るための家をつくる前提ではないかと。

未来永劫、安心して暮らす家をつくるのは決まり事や法律ではなく人だと思うから。しっかりとした経験と知恵、技術のある職人がいてこそ。しかし経済至上主義のなかで効率や生産性・安さばかりが後押しされ、職人は技術を活かし磨く機会を奪われています。

年々便利な物の登場で、良く言えば職人の手を取らせない、悪く言えば職人のいらない建築現場になっていつていると言えます。

果たして私達が向かおうとしているその先に、本当の幸せや喜びはあるのだろうか・・と、昔ながらの家づくりの力強い木組みを目の前に思う私です。

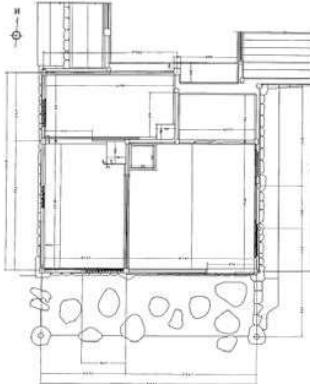
今治市河野美術館の茶室 待庵の明り

宮地電機株式会社 田部 泉

今治市河野美術館の庭に隣接する茶室は、待庵^{※1}(京都、山崎の妙喜庵にある国宝茶室待庵^{※2}をそのまま写し建てたもの)と柿ノ木庵から成っており、昭和43年に河野美術館を建造の際、河野信一氏の邸内にあったものを東京から移築した茶室です。



※1 今治河野美術館 待庵



※2 京都山崎 待庵

以前から興味があり何度か訪れていましたが、昨年12月6日に縁があって、許可をいただき午前中の10時、午後の1時、3時、16時に自然光による水平面照度測定を測定する。茶室の照度はどのくらいの明るさで茶事を執り行っているのか興味がありました。あいにく天気は雲が多く、晴れたり曇ったりの天気でしたが照度測定結果^{※3}の一部が下記のとおりです。

水平面照度(lx)	午前10時	午後1時	午後3時	午後4時
色温度(k)	4,200	4,270	4,350	4,650
床面	4.0	20.8	12.7	2.3
畳面	8.9	16.5	4.7	1.9

※3 照度測定 (2014.12.6)

現代の明るい人工照明に慣れている人々ではとても暗く見える室内ですが、実際に座って感じたことは明るさは数値以上に明るく感じる。私は茶道の心得がありませんが、作法や動作、人の息吹や動作をより感じる距離になっ

ているように感じます。夕方4時過ぎに照度計が測定できるギリギリの時間に照度測定しましたが、(表現が難しいですが) 見にくいのでなく感じやすい明るさがこの空間にあるような印象です。夜間の茶会は油を使った灯器^{タンケイ}の短檠^{タクヤ}であかりを灯したのではないか、月明かり程度の照度1lxの空間だと思います。

確認のために照度はこれ以外にも天井面の照度なども測定しました。この空間が暗く感じないのは、なぜか。

ひとつには窓が和紙で作られ、自然光を室内に光窓から透過して、拡散している効果が大きい。今のガラス窓とは光の取り入れ方が違う。自然光を有効に活用するために窓の大きさや位置(北側と東側)で自然光の直接光を配慮しながら利用している様子がうかがえる。

もうひとつは、反射率を考慮した建築素材の吟味ではないかと思います。光の反射を有効に活用した素材選択があるように感じ各素材の反射率を調べてみました。

杉材は30~50%、竹材は55~75%、畳は50~60%、和紙は30~50%、和風砂壁は5~15%です。天井面に竹材を使用しているのは反射の活用で畳面と照度測定比較すると明るいのは、和紙張り窓の透過率と反射率の性質、それと天井面の竹材反射率が有効であるように思えます。床壁にはあえて反射率の低い素材を使い、掛け軸を掛けた際に明るく見せる効果がある。約400年前に光の反射を想定して素材を吟味した室内設えには驚きがあります。

個人住宅の照明も明る過ぎない工夫と直接光ばかりではなく反射光や拡散光を活用することでより優しい空間に成りえるような気がします。

女と男

松山支部 玉乃井 公和

それが住まいを始めとする建築の設計と、一体何の関係があるのか、ということはさておいて、女と男という“陰陽二元”を同じくするものは何か、ということを考えてみれば、それはすぐに「同じ人間である」という答えが出てきます。

ただ、「同じ人間である」とは言っても、その見てくれや身体のつくり・心根が違うのは、誰でも一目瞭然で分かります。その外見や感性などを見る限りにおいては、どう見ても“同じ人間”とは思えません。そうすると、女と男の“同じ人間”的部分は、一体どこにあるのか、ということを知りたくなります。(私だけの妄想的好奇心かも知れませんが)

ここからはいつも通りの空想になりますが、空想であるがゆえの便利さでもって、一切の“手続き”を省いて先ず人間には「魂」があるとし、さらには“空想の筋斗雲”に乗って一気にワープして、その「魂」を“見つめて”みれば、先に見た女と男に心根の違いがあるということからすれば、「魂」にあっても、どうやら女と男の違いがあるように私の目には“見え”ます。

そうすると、「魂」を“外見で判断”しただけでは、まだ女と男に共通する“同じ人間”を見い出すことはできないようですから、もう少しそれをズームアップして、“魂の構造”がどうなっているのかを“見て”みる必要があるように思えます。

もちろんそんなものが、まともな目で見える筈はありませんから、ここからは“妄想の電子顕微鏡”で覗いてみることにします。そうすると、この“妄想の電子顕微鏡”でもって私の目に映ってきた人間の「魂」は、“思いをもつたエネルギー一体”的な“構造”に見えてきます。

この“構造”的内に“思いの部分”には、先に“外見で判断”した通り、まだ女と男の色合いの違いがあるように見えます。

では魂を“構成”するもう一つの“エネルギー一体”的はどうかというと、それにはそれぞれの「魂」に、その波長の長短・つまりエネルギーの強弱みたいなものがあるように見えますが、その波長に女と男の違いはなさそ

うに“見え”ます。どうやらこのあたりが、女と男に共通する“同じ人間”的なところのように思えます。妄想屋を重ねますが、女と男の違いのあるなしにかかわらず、何となく気の合う人というのは、この“魂の波長”が合う人なのかも知れません。

「鉱物の中で魂は眠り、植物の中で魂は目覚め、動物の中で魂は動き回り、人間の中で魂は思惟する」(その出典は忘れましたが)という言葉があります。

この言葉からすれば、「魂」の有り様は、鉱物・植物・動物・人間それぞれに違うようですが、その“構造”は同じなのではないか、思ったりします。

皆それぞれの波長をもった“思いのエネルギー一体”ということでは、全てが共通するのではないかと、またまた妄想屋を重ねてみれば、そこから、この地上に在る、ありとあらゆるものすべてが、ごく“自然”に一つに溶け合うことができるようにも思えてきます。

つまりは、「山川草木悉有仏性」の世界が、鮮明に目の前に拡がってくるような。

自然の中にある大きな岩や木や滝などに感じる荘厳さ、草花から与えられる安らぎ、動物たちから与えられる癒し等々、人が他の自然から与えられ、感じるそれらの感覚は、もしかするとそれぞれの自然の「魂」が発するエネルギー・即ち「気」によるものではないかと思ったりします。

その、すべてのものが共有する「気」は、もしかするとこの大宇宙の始まりにあった“元の気”ではないのか。そして無意識の内に私達日本人は、日常の挨拶として常にその“原点”へと回帰をしている。「お元気ですか」と。

空想から妄想を重ねてここまで“見て”きたものに、一体何の意味があるのかは私にも分かりませんが、感覚として、そのあたりが住まいの設計の原点としてあるようにも思えるのです。(と、最後は強引に辻褄を合わせて)もっとも、こうして見てきた私の“目”は、かなりの乱視の上に乱心も加わっているのかも知れず、そこに映った映像は、当然のごとく眉唾ものであることは言うまでありません。その点はゴリョウショウのほどを。

R屋根を持つ西条の家

会員のお仕事拝見

8

周桑支部 篠原 健治



外壁には焼杉板、木製化粧梁及び柱、軒天井にも無垢板を施し、木の持つ風合いを活かしつつ主張し過ぎない自然さと、白と黒のコントラストで引き締まった印象を与えた。また屋根に直線と曲線をもたせることでシャープさと柔らかさを併せ持つ豊かな表情をもたせた外観を表現した。



表札支柱には施主様の旧家解体時に出た基礎石を再利用

主要用途 専用住宅
建築面積 106.82 m²
床面積 140.79 m²

設計監理 東予設計事務所 篠原健治
施工 木心家



床素材はパイン無垢板に自然塗装を施し、壁天井は漆喰塗り、一部木製梁を露出させ自然な風合いをもたせた。



洗面所とは別に家族の帰宅時及び来客用に手洗いを設置。カウンターには杉天然木を使用し耐水性を持たせる為つや消しウレタンクリヤー塗装を施した。



LED 間接照明を用い柔らかい暖かな空間を演出



尚ガルバリウム鋼板を用いた屋根下地の野地板には最近主流である合板はあえて使用せず杉板を使用し、鋼板の直下に樹脂を用いた通気層で野地板の結露及び腐朽対策を講じ、もちろん外壁内通気層も設け居住性を高めている。

会員の皆様へ

7月号から「会員のお仕事拝見」というコーナーを設けました。設計、施工、各職種等、様々な建築に携わる人のお仕事を、写真を中心にして投稿していただくコーナーです。皆さんどうかご参加下さい。
(尚、写真とデータ、説明等で、A4版1ページに納まるようお願いします。)

建築文化市民講座報告

4月4日伊予市において文化財まちづくり委員会主催の市民講座を開催しました。伊予市には谷上山（たがみさん）という山があります。標高は455m、桜が多く植樹されている事もあり、春には多くの花見客で賑わう市民にとって大切な場所にもなっています。この山の周辺には宝珠寺、福田寺、伊豫稻荷神社という寺社があります。今回はこの建物について、お話をさせていただきました。



当日の天気予報は曇り後雨という予報でした。谷上山、山頂付近は午前中から霧がかかっており直前からは雨も降りだす悪天候に見舞われました。不安は的中しました。最初の宝珠寺へは急な階段を上がらないといけません。石の階段は濡れると滑りやすくなるので心配しましたが、幸い雨は短時間で止んでくれました。参加者に怪我がなかった事がなによりでした。天候は最初こそ雨に見舞われましたが、それから回復し、最後までなんとか持ちこたえてくれました。

宝珠寺は峰岡委員が説明を担当しました。寺院の成り立ち、組物等の納まりの事、寺を建てた大工、川中夏吉について等、貴重な資料も用いて、一般参加の方々にも古建築が持つ魅力を解りやすく丁寧に説明していました。

福田寺、伊豫稻荷神社は私が担当させていただきました。伊予市（郡中）と寺社との歴史的関わり、建物の特徴等について説明をさせていただきました。

私は文化財まちづくり委員をやらせていただいていま

文化財・まちづくり委員会 副委員長 若松一心

す。古民家の調査にも参加しています。しかし、私の知識は諸先輩、後から委員になられた方と比較しますと恥ずかしい限りで、寺や神社は初詣や旅行等で訪れるくらいで、自発的に古建築について深く学びたいという想いはありませんでした。そんな私が地元の文化財の説明をするという機会をいただきました。催し自体は半日に満たない時間ですが、先にも述べた通り学ぶ事が多いもので、準備にも時間が必要でした。企画が決定してから本田名誉会長、戸井支部長、峰岡委員にはお忙しい中、週一日の夜間勉強会にお付き合いいただき、多くの事を教えていただき大変感謝をしています。調べる程に文化財が幾多の時代を乗り越えて今に至るのか、様々な理由（仮説も含め）が僅かですが解った気がしてきました。地元の文化財について学べた事は説明をした私が、一番の収穫を得た事は間違いないと実感をしています。



この市民講座が、ご参加いただいた方々の住む地域でも、見慣れた風景のなかに素晴らしい歴史的遺産が存在している事に気付いていただく機会になれば良かったと思います。

今回は伊予市という事で伊予支部の方々も準備、運営までご協力いただきました。改めて、お疲れ様でした！



谷上山慈悲院宝珠寺と川中夏吉

文化財・まちづくり委員 峰岡秀和



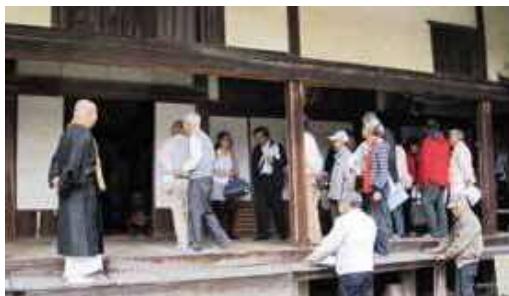
去る4月4日、寒さも和らぎ急いで桜の花も咲き始めた頃、建築市民講座が開催されました。今回は伊予市にある「谷上山」周辺の歴史的建造物として、本堂が伊予市指定文化財になっている宝珠寺、本堂・山門・通玄庵が国の登録有形文化財となっている福田寺、楼門が県指定文化財となっている伊予稻荷神社の三ヶ所を散策するというコースになります。

この時期は「菜種梅雨」ともいわれ、非常に雨の多い時期です。当日もあいにくの雨に見舞われたのですが、始まってみれば雨も上がり、非常に多くの方々がご参加くださいました。

最初は谷上山宝珠寺。説明は私です。一般の方々に説明するのはなかなか難しい事で、飽きない様、聞き取りやすい様、緊張で手を湿らせながらお話しさせていただきました。伊予の左甚五郎と謳われた富大工、川中夏吉が手掛けた、芸術性の高い作品を見ていただきました。伊予市の文化財でもある宝珠寺が、もっと身近なものになつていただけたでしょうか。

次は福田寺。谷上山の麓にあるお寺です。この寺院は禅宗（臨済宗）で方丈形式の本堂と落ち着いた庭を持っています。そして素晴らしいのが「通玄庵」という庵です。

今回は特別に中を見せていただきました。説明をして



いただいたのは副委員長の若松さん。今は使われなくなっている「本当の参道」から山門に入るという粋な構成で始まり、境内、本堂（何と狩野派が描いた龍虎の襖絵を見せてくださいました）、通玄庵と禅宗形式の建物を堪能しました。

最後は伊予稻荷神社です。こちらも若松さんの説明でした。楼門は矢を携えたお爺さんが左右に鎮座していて、この形式を隋身門と呼ぶそうです。禰宜さんから神社の成り立ち等詳しいお話しも聴くことができました。

今回説明をさせていただいたのですが、その準備にあたり、建物の事だけでなく頭に残る話し方、順序等非常に多くのものを勉強させていただきました。毎週の勉強会では戸井伊予支部長や本田名誉会長からアドバイスを頂き、また若松副委員長から様々な視点でのアプローチの仕方等、夜遅くまで協力して頂き感謝の念が堪えません。最後に、講座開催にあたって資料提供をしていただいた伊予市役所や資料作成に協力して頂いた川中夏吉のお孫さんの川中弘二さん、協力して下さった伊予支部のみなさん、本当にありがとうございました。



三津浜地区 古民家・史跡散策報告

松山支部 北地区勉強会 横田彩（撮影者：大西慶）

去る年5月17日（日）松山市三津浜地区において、犬伏先生、池田由美さんを講師に迎え会員、会員の家族・友人20名と共に古民家・史跡散策を行いました。

瀬戸内の要衝として古くから栄えた港町三津浜は、戦災を免れたおかげで、かつての財や文化を物語る醸造業や金融、汽船、問屋など近代的建築物や町屋等の風情ある町並みが残る地区となっています。時代の移り変わりと共にそれらの多くは空家となっているようですが、一方で新たな利用としてカフェや資料館、飲食店として活用が始まっている物件もあります。今回はその中で修理が行われている建物、新しい活用が始まった古民家を講師の方々と共に歩いて見て回りました。



（森家正面）

森家は歴史ある古民家の中で鯛めしをいただく事ができる「鯛や」として活用されています。1929年上棟の登録有形文化財。座敷の欄間には鳳凰の透かし彫りがあったり、書院に花頭窓、洋室には寄木張りの床があります。地棟に墨で棟梁の名や要三郎の俳句が書かれているのを、2006年に犬伏先生発見されました。ここで食事をいただき、その後当主の方より屋根裏の資料館を案内して頂きました。

木村家は開き戸袋？（京都の町屋にもみられる工夫）、箱階段、火袋（吹抜）延焼防止の工夫、その時代には珍しい内風呂を蝙蝠図柄のタイルで造られていたり、町屋の工夫がいっぱいの元船具屋でした。

鈴木家は建築主の長男が後に三津浜煉瓦社長となる民家で、外壁の下部と袖壁、窓の枠と格子にその当時新しい技術であった「洗い出し仕上げ」が使われています。また、袖壁には洋風の意匠が施されています。

河野家は建築年1828推定、三津地区で一番古い船具屋さんで、今でも滑車、ランプ、箱火鉢、気圧計、舟釘などが土間の棚に飾られています。座敷の欄間、書院、床の間、床脇は贅沢なつくりとなっており必見でした。引手にはつぼつぼが施されています。



（犬伏先生・池田由美さん）

濱田医院は大正12年から15年ごろ建てられた木造2階建ての擬洋風建築です。レンガの門柱や、鉄のフェンス、スクラッチタイルなど洋風要素が多く取り入れられています。長い間空き家となり、痛みが激しくなっていたこの建物をDIYワークショップなどの活動で復活させようと作業が進められているところを見学させていただきました。

その他外観からの見学もしながら、三津地区の町並みをしっかりと歩きまわりました。しかし、まだまだ見て回れていない場所もあります。身近にありながら、身近であるがゆえになかなか行く事がありません。また、このような地域のことをもっと知る機会がつくれたらと思います。講師の方々、参加していただいた皆様、お疲れ様でした。



（山谷家前で参加者と）

「地区長 山内知照から一言」

終了後の参加者へのアンケートでは

- ・改めて三津の古民家の良さを知りました。
 - ・鯛めしも食べて、とても有意義な半日でした。
 - ・個人では重い腰が上がりずにいましたが、みんなと一緒に散策出来て、とても楽しかったです。
 - ・北地区の会員でよかった など
- 多くの人に喜んで頂きました。今回お世話になった人出会いに感謝です。 ありがとうございました。

けんちくの輪

松山支部 赤松 慶隆

皆様こんにちは。松山支部の高橋さんからご指名を受けて寄稿させていただくことになりました、松山支部の赤松です。自分の番になってなかなか次の方が決まらず、大変なお話を引き受けてしまったなど若干後悔しながら書いております。

私が建築士会に入会したのは、3年前のことです。それまで他県で設計事務所に勤めておりましたが、地元に帰ってくることになり、地元の業界の事情も知りたいと思い士会の事務所を訪ねました。建築士の資格は取得していましたが、勤めていた会社ではなかなか士会活動に参加出来る時間もありませんでしたので、当時は入会すら考えておりませんでした。

具体的に何をするか分からず入会しましたが、入会してすぐ東地区の会でご挨拶させていただき、その後青年部の懇親会（確か、花見と題した居酒屋での開催でした）で6月の中四国大会の参加を確約させられ（！）、高知大会へ。その後松山で行なわれた若手建築士の会にも参加させていただきました。盛りだくさんのイベントで様々な経験をさせていただき、気がつけばどっぷり浸かっている自分がいます。



私はもともと大学が建築学部ではありませんでしたが、学部横断の授業で建築のことを勉強しているうちに魅力を感じ、3回生の時に専門学校の夜間にダブルスクールすることにしました。そのままズルズルと卒業、就職を経て今に至ります。夜間の学校でしたので同級生は様々な年齢の方で、思い返せば、建築のことで語り合える同志がおりませんでした。士会活動が楽しく感じているのもその反動かもしれません。

仕事に関してですが、オフィスの改装に携わる仕事をしています。昨今ではワークスタイルも多岐にわたり、また、OA機器の発達も相まって、従来型のオフィスでは対応しきれないことが多い現状です。一日の大半を過

ごす空間ですので、快適性はもちろんリフレッシュ出来るスペースを設けることも要求されます。そのようなニーズにお答えすべく、建築的なご提案、既製品のご案内などを織り交ぜてプレゼンテーションさせていただいているいます。

百聞は一見に如かずですので、お客様には一昨年にリフォームした弊社をご覧いただくこともあります。ご興味のある方はお問い合わせいただければご案内させていただきます。（一部拠点でも実施しております）



話を士会活動に戻しまして、思い返してみるととても良い経験をたくさんさせていただきました。若い方、新人さんも参加されると得るものは多いと思います。皆様ご多忙でしょうが、会社の方もご理解していただき、送り出していただければ今後益々けんちくの輪は広がっていくのでは無いでしょうか。

最後になりましたが、この寄稿で士会活動を振り返る機会をいただきましたことを感謝いたします。稚拙な文章で申し訳ありませんでした。次の方がきっと素敵に書いてくださいますのでご容赦下さい。

（写真左 中四国大会の懇親会場 名司会が大活躍でした）
（写真右 上下 弊社内観写真）

つながり

けんちくの輪

宇和島支部 酒井久和

宇和島の二宮さんからバトンを受けました宇和島支部の酒井です。酒井設計に勤務しており、設計監理の業務をしております。

さて、どうしようか考えていると自分には文章を書く能力が劣っていることを忘れていました。難しいことは書けないので、普段の日課を書こうと思います。

一通り仕事をし、夕方になるとお風呂の支度が始まります。皆様、今この時代蛇口をひねったらすぐにお湯が出るのが当たり前と思われていませんか（笑）。私の家では、ボイラーに木を入れお風呂を沸かしています。なので、まず廃材を準備して1時間から2時間かけてお湯を沸かします。夜9時ぐらいになるとその温度がちょうど良い湯加減になります。手間がかかりますが、これがなかなか楽しい人の輪を作り上げていきます。



私の相棒 CHOBU HG - 4000S



ケノコをゆがき、山菜のアクを抜き都会にいる友人や親戚に送ります。私たちには普通のことでも毎年楽しみにして喜ばれます。冬には暖を取るのに皆が火の周りに集まり一日の出来事を話したり、やきいもなどを作ったりと、また家族の輪ができます。最近では、ダッヂオーブンを使い丸鳥を焼いたり、燻製に挑戦しています。

このように、毎日の日課だった風呂焚きが今では、趣味に変わり楽しんでおります。



タケノコのアク抜き



ダッヂオーブンでの調理



火の管理（監理？）

廃材ですが、これは現場から頂いてきます。建築の仕事を始めたばかりの時、父の教えで現場の掃除をして、どの部材の廃材か、なぜロスができるのか考えなさいと言われました。今でも悩みが尽きません。そして、現場で廃材を貰うようになり大工さんとの会話も増え今では、袋に詰めて用意していると、お声があちらこちらとかかるようになり感謝とともに勉強させてもらい、人のつながりを感じております。

また、火を起こすことで炭がたくさん出てきます。それを利用し、季節も感じられます。春には山で取ったタ

最後に、私はまだまだ建築について語れるほど経験はありませんが昔と現代を共存し、人とのつながりを大切にした物作りをしていきたいと思います。

次のバトンは、通常総会後の懇親会にて、お酒の勢いでお渡ししようと考えております。どうぞ、よろしくお願ひします。

事務所協会との 合同親睦ゴルフコンペ報告

副会長 赤根良忠

平成27年度（一社）愛媛県建築事務所協会・（公社）
愛媛県建築士会合同親睦ゴルフコンペが5月19日（火）
喜多郡内子町「愛媛ゴルフ倶楽部」で開催されました。

両協会正会員・賛助会員 あわせて38名10組の
ゴルフ大会でダブルペリア方式により成績を競いあいま
した。

優賞は、宇和島支部 松浦洋さん

2位は、新居浜支部 青野 一輝さん

3位は、賛助会員 三州瓦センター西村光平さんとなり
ました。

前日は大雨で、天気予報も思わしくありませんでした
が、当日は晴天に恵まれ参加者一同和やかなゴルフを樂
しみました。



〔優勝の松浦さん〕

みなさんお疲れ様でした。

最後に、ゴルフ場の手配等にご協力いただきました大
野正勝さまにこの場をお借りしてお礼を申し上げます。
大変お世話になり、ありがとうございました。



〔ミーティング風景〕

あなたの原稿をお待ちしています。

公益社団法人として、広く異業種や全ての皆様から建築士会の枠を超えて原稿を広く募集して広く購買して頂くようにしていきます。是非、寄稿して頂きますようお願い致します。本年度は年6回発行となります。(尚、営業的色彩の濃いものにつきましては、掲載されない場合もありますので、ご了承下さい。)

「いしづち」の本年度の原稿締切日

平成27年 9月号(106号) 7月23日(木)

※ 校正印刷の関係で締切延長の最終期限は一週間後の木曜日とします。

※ 1ページ写真込みで2150文字(25文字×43行×横2段)のWORD様式を事務局で用意していますのでご活用ください。

写真は1ページ当たり5枚程度まで題名を付けて添付ください。

また宜しければ投稿者の写真(免許写真程度の顔写真)を添付ください。

会員の皆様のご参加をお待ちしております。また記事等についてのご意見・ご感想もお寄せください。

(尚、投稿された原稿につきましては、要旨を変えない程度の若干の訂正等を加えることがあるかも知れませんので、予めご了承下さい。)

この誌面を通じて、会員の方々、そして一般の方々にまで、建築についての対話等の輪が広がれば、と願っています。

情報・広報委員会

読者の声欄

「いしづち」に関するご意見・ご提案などを寄せ下さい。お待ちしています。

「いしづち」編集委員会(士会事務局内)宛
—FAX 948-0061—

編集後記

建築士会は、改めて言うまでもなく建築士の集まりで、その建築士には、設計・構造・施工・設備・歴史等々の、様々な分野の建築士がいます。

そしてこの「いしづち」は、その様々な分野の人が、一般の人達や会員の方々に向けて、それぞれの人が持つ建築への思いなどを発信し、その発信を通して新たな出会いが生まれる「縁の場」であればと願っています。

今号からは又新たに、古建築等で活躍をされております花岡直樹氏の「故きをたずねて」の連載が始まりました。

この一年間の「いしづち」での“発信例”によって、その雰囲気も少しお分かりになってきたことと思います。これからもこの「縁の場」が拡がりをもって行くために、施工・設備・或いはそれぞれの職種の人達などの、様々な分野からの発信をお待ち致しております。

尚、5月号からは、県内30か所の図書館にもこの「いしづち」を送付させて頂いており、こちらの方でも少し「縁」
(玉乃井 公和)

本誌の表紙の版画を提供して頂いております、山田きよ氏の版画展が今年も下記の日程で開催されます。実物には、プリントではない美しさがあります。一度ご覧下さい。

[山田きよ版画展]

平成27年 7月10日(金)～20日(月)
8月24日(月)～29日(土)
11月23日(月)～29日(日) ギャラリー・ブロッサム(今治市桜井)
画廊・シャノワール(兵庫県川西市)
山荘画廊(大洲市大洲)

〈いしづち〉2015 / 7

平成27年7月発行

発行人 会長 寺尾 保仁

発行所 公益社団法人 愛媛県建築士会

〒790-0002 松山市二番町四丁目1-5

TEL (089)945-6100 FAX (089)948-0061

<http://www.ehime-shikai.com> E-mail : info@ehime-shikai.com

印刷所 明星印刷工業株式会社

情報・広報委員会・広報委員

委員長 玉乃井公和 副委員長 大上 恵子

編集委員 二宮 初子 宮内 理 越智 麻衣 石丸真智子 小笠原 元 水野日出夫

☆会員の皆様、住所等が変更になった時には事務局までお知らせください。(FAX 089-948-0061)

公益社団法人 愛媛県建築士会

会員住所等の変更届出

この様式は愛媛県建築士会の会員名簿データの変更のみです。
建築士のデータの変更には使用できません。

【正会員・準会員】

		支部	年	月	日	
ふりがな		生年月日	大昭平	性別		
氏名						
変更部分のみ記入して下さい	現住所	〒	—	TEL	FAX	
	勤務先	名称				
		所在地	〒	—	TEL	FAX
	建築士資格	一級・二級・木造・準	登録年月日 登録番号	昭・平 年 月 日 第	年 月 日 号	



住所等に変更のあった建築士の方は下記の書類も提出してください。

建築士法上の住所等の届出については下記のとおりです。

建築士住所等の届出の次の記載事項(①～③)に変更があった場合、
変更があった日から30日以内に(公社)愛媛県建築士会に申請者本人が届け出でください。
①住所、本籍等 ②建築に関する業務に従事する者にあっては、その業務の内容
③勤務先の名称(建築士事務所にあっては、その名称及び開設者の氏名)及び所在地
書式は愛媛県建築士会のホームページからダウンロード出来ます。